



西伊豆紀行 / 西伊豆縦断編

2003年1月1日掲載

2003年を迎えた。今年1発目の「つれづれWEB」は「西伊豆紀行」と題し、1泊2日の旅をお送りしよう。

そもそもこの旅を企画したのは、ある情報がかっけ。それは、西伊豆・松崎の宿で「伊勢エビの刺身&サザエご飯がついて、1泊2食付き9000円」というものである。ちなみに、伊勢エビ&サザエご飯でない場合は、1泊2食付きで6500円なのだ。

これは行くしかない！ 早速12月上旬の予約を入れる。

いよいよ旅の当日、天気もまずまず。ただ、翌日が雨らしい。

そんなことは気にせず、東名高速で沼津ICへ。どうもこの日は腹の調子が悪く、途中何度もトイレに立ち寄る。

沼津からは国道1号、136号などを經由して淡島へ。ここ淡島にはレジャーランドがあるが、平日ということもあり人もまばらである。

淡島は素通りし、峠道を通り戸田(へだ)へ。海岸沿いでも戸田には来れるが、峠経由の方が近道らしい。

道路地図にも、海岸沿いに道には「道幅狭い」と書いてある。ただ、峠道も十分道幅は狭いような気がするが。

西伊豆へは一度訪れている。なので、だいたいの道は知っている。

このときの様子を「つれづれWEB」に記した記憶があったが、その記録がない。ただの記憶違いか？

土肥(とい)に到着。バスターミナルの目の前に足湯があるので、早速つかってみる。

これが何とも気持ちいい！ 服を脱いで全身入りたくなる感覚なのだ。

ここでは温泉を持ち帰れる。18リットルのポリタンクを何個も用意し、温泉を組んで帰る人の姿がいた。

土肥をすぎ、恋人岬へ。ここには「恋人岬PA」がある。

PAには、売店や「恋人岬」と書かれたプレー

トもあり、立派な観光スポット。しかし、岬はここから徒歩15分ほどの山道である。

このPAだけに立ち寄って、満足して帰っていく人も多いらしい。でも私はしっかり岬まで歩いた。

岬には鐘があり、これを3回鳴らすと幸せに



なれるらしい。1回しか鳴らさなかったが、果たして幸せになれるのか？

恋人岬をあとにし、西伊豆をさらに南下。堂ヶ島に到着した。

ここで変なものを見つける。ツラ疑惑が絶えない歌手の美術館があるのだ。当然、入口には歌手の大きな写真が飾ってあり、記念撮影する人もいた。

堂ヶ島では昼食。海鮮丼を食し、伊豆最南端の石廊崎を目指す。

しかし、時刻は3時過ぎ。12月の日は短いので、日没まで間に合うのか？

[\[トップページ\]](#)

この続きは[次回](#)へ。



西伊豆紀行 / 伊勢エビ！編

2003年1月8日掲載

「西伊豆紀行」の2回目。1回目は[こちら](#)をご覧ください。

堂ヶ島を3時に出発し、何とか4時前に石廊崎に到着。冬の早い日没に間に合った。

駐車場には、車はいない。すると、どこからか野良猫が1匹やってきた。

しかも、「ニャー」とこびを売って餌をねだる。きっと、人間にこびを売れば餌がもらえと思っているに違いない。

本来ならむやみやたらに餌を与えてはいけないうが、ついお菓子をやってしまった。そうしたら、むさぼるように食べたのだ。

さらに、もう1匹も。2匹でお菓子を食べ終わると、満足したようにどこかに帰っていった。

猫も満腹になったことだし、石廊崎に向かう。岬の突端には、石室神社というほこらがある。



見ての通り、断崖にへばりついているような社。何でも、100年ほど前の建物らしい。

日没間際ということで、社務所を閉めるところだったらしい。手短にお参りをしていく。

来た道を逆に戻り、今日の宿がある松崎へ。宿には、5時ころに着いた。

部屋は4階だが、宿にはエレベーターはない。仕方なく、階段をひたすら上ることになる。

今回の目玉は、何とんでも伊勢エビ！伊勢エビのお造りと、サザエご飯なのだ。

早速夕食の時間となり、食堂へ。そこには、伊勢エビが待っていたのだ!!

伊勢エビの刺身もうまいし、サザエの炊き込みご飯もうまい！これら以外にも、アジのた

たきや煮物も美味である。

こんなお造りがついて1泊2日で9000円とは、安いの一語に尽きる。元々、伊勢エビがなくても6500円なのだが。

伊勢エビで満足したふくちゃんは、温泉に浸かりビールを引っかけてとっと寝ることにした。明日に備えてのことだが、どうも天気が悪いらしい。

テレビの天気予報をいろいろ見ても、「雨」の予報。果たして、天気は。

[\[トップページ\]](#)

続きは[こちら](#)からどうぞ。



西伊豆紀行 / 雨の西伊豆編

2003年1月21日掲載

お送りしている「西伊豆紀行」もいよいよ最終回。1回目は[こちら](#)、2回目は[こちら](#)からどうぞ。

2日目は雨の予報だったが、朝起きてみると見事に雨。まあ、前日に石廊崎まで強行したからよしとしよう。

朝食には伊勢エビのみそ汁がついていた。伊勢エビの刺身がつく「伊勢エビパック」の最後のサービスである。

伊勢エビのだしが出て、これがなかなかの美味。朝からこんな贅沢は、そうは味わえない。

9時過ぎにチェックアウトし、西伊豆の海岸沿いを走る国道136号を北上。途中、前日の昼食で立ち寄った堂ヶ島の土産物店でおみやげを購入する。

さらに北上し、土肥へ向かう。雨の日の観光は限られるので、土肥金山に行くことにした。



ここは江戸時代に掘られ、伊豆でも最大の金山である。総延長

100km以上に及ぶ坑道の一部が開放され、江戸時代の採掘の様子を見ることができる。

また、坑道とは別に資料館がある。採掘した金鉱を精錬する光景を再現しているほか、実際に砂金を採ることもできる。

ここでの最大の見せ物は、重さ200kgの金塊。



時価2億3000万円はするといいい、世界一の巨大金塊らしい。

アクリル板で覆われてはいるものの、実際にさわることできる。触感は、妙に冷たかった。

土肥金山をあとにし、船原トンネル、天城湯ケ島と136号を經由し、修善寺のうどん屋で昼食。ここは、「[新春伊豆紀行 / 温泉の巻](#)」(2002年1月6日掲載)にも登場した店である。

つまり、ほぼ1年ぶりの来店である。店内には、その後来店した「座布団運び」でおなじみのタレントのサインが飾ってあった。

昼食を食べ、伊東へ。途中、亀石峠付近では雲の中を通る。わずか100m先も見えない状態だが、峠を下りると視界が晴れた。

峠の麓は宇佐美。観光ミカン園が多い場所である。

とあるミカン園に立ち寄り、ミカン1袋を買う。ミカンの試食だけではなく、お茶をやお菓子、あるいはミカンジャムを塗ったパンまで出してくれた。

そんな中、ミカン狩りを終えた男女が出現。まさか雨の中ミカン狩りをしている人はいないだろうと思っていたら

ミカン園を出発し、帰途へ。伊勢原で給油したのち、実家近くで夕食を摂り帰宅した。

[\[トップページ\]](#)